

2017 4/11

No.2040

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



2009年3月に消失し、再建が進められてきた旧吉田茂邸（大磯町西小磯）の落成記念式典が開かれ、4月1日から一般公開されている。



視点・点描	3
気になる首長選挙の行方	
講演録	4
日本の未来のために～女性が輝く社会づくり 内閣総理大臣夫人 安倍 昭恵	
社会	8
石巻に住んでみませんか 空き家をシェアハウスに活用	
国際	12
中国の新都市政策に注目 「特色小鎮」がブーム	
企業最前線	14
ドローンの3D測量を支援 土木工事の生産性を向上	
くらし2017	16
介護職員の虐待過去最多	
広告珍談	18
広告はたのしい③⑦ 最初の鉄道広告	
NNAアジア経済レポート	19

事務局だより

◇5月定例講演会

2017年5月18日(木)

午後1時30分～3時

横浜ベイシェラトンホテル & タワーズ4階「浜風」

講師はコリア・リポート編集長、ジャーナリストの辺真一さん

演題は「韓国新政権誕生 日韓関係、半島情勢は？」

◇会員の動き(敬称略)

社名変更 ▽キリンビールマーケティング(株)横浜支社⇒キリンビール(株)横浜支社

名義変更 ▽ホテルモントレ横浜取締役総支配人・吉村大輝⇒総支配人・白石鋭▽(株)高島屋横浜店 上席執行役員店

長・堀口健二⇒執行役員店長・青木和宏▽名義変更 ホテル横浜キャメロットジャパン総

支配人・堤浩司⇒浅見正則▽神奈川県自動車販売店協会専務理事・山田徹⇒大蔵幸雄▽

神奈川県県民局長・茂木吉晴⇒局長兼拉致問題担当局長・河合宏一▽同環境農政局長・

金子真理子⇒藤巻均▽同保健福祉局長・佐久間信哉⇒武井政二▽同産業労働局長・藤巻

均⇒楯岡信一▽同県土整備局長・平野浩一⇒鈴木祥一▽同会計管理者兼会計局長・水田

豊人⇒小野淳▽同東京事務所長・小野淳⇒和泉雅幸▽同企業庁企業局長・菅野隆⇒長谷

川幹男▽同企業庁企業局技監兼水道部長・長谷山信一⇒渡部茂樹

視点 点描



気になる首長選挙の行方

2017年度は注目の首長選挙

が相次ぐ。7月末の横浜市長選、秋の川崎市長選という2政令市長選をはじめ、6月の横須賀市長選など市民や経済界にとって目が離せない展開が続くだろう。

横浜、川崎、横須賀の3市に共通するのは現職の存在。川崎、横須賀の現職は立候補の意向を既に表明、横浜も出馬が有力視されて

いる。

着々と地歩を固めつつあるのは、川崎市の福田紀彦市長。川崎商工会議所の会頭が会長を務め、各種団体の要人が名を連ねる政治団体が福田氏の再選を目指して活動。同団体は、前回の市長選で福田氏に敗れた自民党市連にも同調を求めている。

対照的なのは、横須賀市の吉田

雄人市長。これまでも、市長側に献金していた人物を市職員に採用した問題などが市議会で追及されてきたが、公選法に違反する恐れを認識しながら観光船の割引サービス案内を記載した名刺を使用し続けた疑惑がここに来て浮上。対抗馬としても、市議選で連続してトップ当選を果たしている上地克明氏が出馬を表明しており、過去2回の市長選と異なり、守りの選挙を強いられるのは必至だ。

一方、横浜は林文字市長が3選に向けた態度を明示しない中、元衆院議員の長島一由氏が1月に出走を表明。「横浜にカジノが必要か市民に聞きたい」と「反カジノ」を掲げて走り出している。

林氏は、カジノを中心とする統合型リゾート施設（IR）の誘致について、昨年末のIR整備推進法の成立を受け「都心臨海部の活性化や財政基盤の強化につな

る」と前向きな姿勢を示していた。が、長島氏の出馬表明後、「積極的に踏み込むことは考えられない」と述べるなど、これまでの発言からトーンダウンした。

横浜市長選をめぐるっては、民進党県連の幹部からも「カジノだけが論点になるのは、できるだけ避けたい」との声が上がっており、林氏の発言の変化も、カジノの争点化を回避したいという思いがあると考えるのが自然だろう。

だが、政府がカジノの実施法案づくりを本格化させ、秋に見込まれる臨時国会への提案を目指しているなど、カジノの話題が耳目を集める流れは続く。横浜市長選でも主要な論点になる可能性は高い。林氏が展開を有利に進めるには、カジノのインパクトをしのぐ論点の提示が必要になるだろう。（神奈川県新聞社経済部長

渋谷 文彦

最初の鉄道広告

世界で初めて鉄道が開通したのは1825年、イギリスのストットトンからダーリントンまで。30年、リバプールからマンチェスターまで、いっばんの旅客を乗せて正式開業した。おなじ年アメリカ、32年フランス、35年ドイツでも開通した。いずれも、SLである。

日本に初めて鉄道が走ったのは、1872（明治5）年5月7日、品川・横浜（桜木町）間で仮営業。1日2往復であった。

9月12日、明治天皇をお迎えして、新橋駅（汐留）で開通式。横浜まで天皇がご乗車になり、横浜駅でも盛大な開通式が行われた。本営業は10月14日、新橋から横浜まで29・1キロメートル。図はいっばん向けの乗車広告。

「汽車出発時刻及賃金表」とな

にやら、タカビシヤだ。いまの表現に直すところなる。発車は「東京横浜とも午前8時・9時・10時・11時」。12時と1時はなく、午後は「2時・3時・4時・5時・6時」の9便。「時」は「字」だから難解だ。走行時間は53分、だから到着はいずれも「同53分」。停車駅は品川・川崎・鶴見・神奈川・横浜。座席は上等・中等・下等の3クラス。賃金こと料金は「東京から横浜まで 上等1円12・5銭。中等75銭。下等37・5銭」。欄外に「小児4才まで無賃 12才までは半賃金

ノ事」と読める。

そのころ日本酒1・8リットルの上等4銭、中等3・4銭、並等2・2銭。白米は10キロリットル36銭であった。鉄道料金はけつして、安くなかった。

乗りたかつたら、発車時刻までに駅へいらつしやい。チャーンと

線路	東京		横浜		品川		川崎		鶴見		神奈川		横浜	
	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入
東京	八時	九時	十時	十一時	十二時
品川
川崎
鶴見
神奈川
横浜

料金を支払って、キップを購入して、ホームで待つてるとえらそいな雰囲気。乗せていただく乗客たちは、礼儀正しく、列をつくって車内へ。おしっこをしたくなっても、トイレはない。吹きさらしのデッキから、シャワーと。ご婦人はどうしたのだから。もちろん、蒸気機関車が引っぱった。イギリス製のタンク式機関車8両、テンダ式機関車2両、客車58両、貨車75両をイギリスから輸入した。記念すべき1号機関車は、イギリスのバルカン・ファンドリ社製の2B形（先輪1軸、動輪2軸）タンク式。国鉄で廃車になり、九州の島原鉄道で活躍。保存のため1930（昭和5）年、東京へ回送された。（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）（図）鉄道最初の広告「汽車出発時刻及賃金表」。1872（明治5）年10月、新聞各紙掲出